

全国学力学習状況調査結果概要

1 実施日 令和3年5月27日(木)

2 実施学年 全国の中学校3年生

3 教科ごとの正答率(本校、埼玉県、全国)

令和3年度 中学校3年生対象	国語	数学
	正答率(%)	正答率(%)
人間野中	65	59
全国	64.6	57.2
埼玉県	65	57

○本校の生徒の国語の正答率の平均は全国をやや上回り、埼玉県の平均とは同等であった。

○本校の生徒の数学の正答率の平均は全国を約2ポイント上回り、埼玉県の平均を2ポイント上回った。

2 問題別の結果からみる本校生徒の学力上の強みと課題

【学力上の強み】○

出題の趣旨		正答率		
		人間野中	全国	埼玉県
国語	話合いの話題や方向を捉える	92.7	89.7	89.7
	相手や場に応じて敬語を適切に使う	47.2	40.3	40.8
	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	75.3	74.0	74.4
数学	整式の加法と減法の計算ができる	84.2	77.1	78.1
	与えられたデータから中央値を求めることができる	92.7	84.5	85.8
	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる	86.4	83.0	82.6

【学力上の課題の傾向】▲

出題の趣旨		正答率		
		人間野中	全国	埼玉県
国語	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	21.3	24.8	22.9
	文脈の中における語句の意味を理解する	39.3	43.7	42.9
	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	52.2	57.1	57.6
数学	関数の意味を理解している	41.8	48.0	47.0
	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	7.9	11.1	9.4
	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	22.6	28.8	27.7

【本校の生徒の学力の傾向】○は強い点、▲は課題

○話し合いの趣旨を理解し、論じていく方向性をとらえる力は高い

○データや資料を読み取るスキルは高い

☆データや数字から物事の状況を読み取る力を身につけつつある

▲書いたり、話したりするときの基本的スキルが十分に身につけていない

▲文脈から読み取ったことについて、それを自分の言葉にして表現する力に課題がある

▲細部を見つけたり、類推する力が十分ではない

★物事を読み取る力や理解する力が身につけているが、それらについて説明したり、自分の考えを発信したりする力を身につけることが課題である

3 生徒質問紙の回答結果から (回答率の単位% 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)

【生徒の肯定的評価が全国や県の平均回答よりも高い項目】

質問項目	入間野中	全国	県
自分にはよいところがある	78.6	76.2	76.8
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている	91.0	84.2	85.9
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	75.3	65.9	71.0
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	75.9	75.7	75.8
1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	90.4	81.0	84.8
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている	98.4	96.5	96.9
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	85.4	74.6	80.1
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	90.4	86.2	89.0
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じていた	56.2	62.8	64.4
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた	40.5	37.6	37.0
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた	51.7	48.4	47.9

<考察>

○自己肯定感は、全国、県平均よりやや高い傾向にある。引き続き、自分の強みを見つけて、それを伸ばし、自信につなげるという思考をもつことが大事である

○本校の生徒は、一度決めたら最後まで粘り強く取り組む姿勢の生徒が多い

○本校の生徒は、チャレンジ精神を持って、物事に向かう姿勢がある 自己肯定感の高さが反映しているのかもしれない

○本校の生徒は、自ら学習内容をフィードバックするという良い傾向がある

○コロナ禍の中、本校生徒は全国や県平均に比べると、休校期間に計画的学習な規則正しい生活ができていたと自己評価する生徒がやや多かった

【生徒の肯定的評価が全国や県の平均回答よりも低い項目】

(回答率の単位% 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)

質問項目	本校	全国	県
家で自分で計画を立てて勉強をしている(学校の授業の予習や復習を含む)	62.4	63.5	65.3
新聞を読んでいる	5.0	10.2	8.4
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	35.4	43.8	40.6
月曜日から金曜日までで授業以外の学習時間が2時間以上である	36.0	41.8	48.5
土、日曜日など 学校がない日の学習時間が3時間以上である	22.0	26.8	28.8

<考察>

- 本校の生徒は、計画して日常の家庭学習を進めるのが全国や県の平均よりやや低く、計画を立てるスキルが不十分かもしれない
- 新聞を読んでいるとの回答率は、全国的に低いが、本校生徒はおよそ全国平均の半分の値なので、課題としてとらえている 現在では、スマートフォンやパソコンなどの電子媒体から情報を入手する時代ではあるが、読解力を高めるためにも、新聞紙面を読む機会を増やしたい
- コロナ禍で、人との接触を避ける日々が続く中で、地域に目を向ける機会が減っている影響が回答率に反映しているのかもしれないが、地域と学校が双方向で関わり、生徒が身近な地域に関心を持つような工夫が求められる。